

子宮頸がん

ワクチンと 検診で防げる唯一のがん



説明は、
徳島大学病院 産科婦人科
病棟医長
加藤 剛志 (かとう たけし)
■問い合わせ 産科婦人科外来
Tel.088-633-7175

子宮頸がん
とは？

子宮頸がんはその名のとおりに子宮頸部と呼ばれる子宮の出口に発生するもので、99%は、性交渉を介したヒトパピローマウイルス(HPV)の感染によって発生します。

このHPVは広くまん延しており、ほとんどの人がどこかで感染していると推定されますが、多くの場合は自然に治癒して問題を起すことはありません。しかし、一部の人は持続感染に移行し、さらにその中の一部の人に頸がんが発生します。

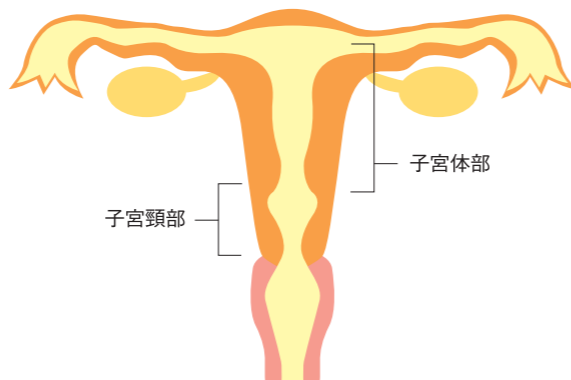
子宮頸がんは発病の初期段階では症状が出にくいので、自覚症状がないまま発症・進行することが多く、発見が遅れると、妊娠・出産に影響を及ぼすだけでなく、命にかかわることがあります。

また、最近では20代、30代、40代の女性に増えており、年間8000人ほどが発症し約2400人が命を落としています。

正しい知識を持っていれば予防できるのが子宮頸がんです。大切な女性のからだを守るために、検診のこと、予防ワクチンのこと、この機会にぜひ知ってください。

子宮頸がんは
乳がんの2倍以上

今、20代、30代の女性の間では、乳がんではなく子宮頸がんががんのトップになっています。それも平成12年前後から急激に増えており、この年代の女性では子宮頸がんは乳がんの2倍以上となり、深刻化しつつあります。



接種と検診の両方を徹底

子宮頸がんは、予防ワクチンの接種と定期的な検診で予防できる唯一のがんです。ワクチンは思春期前の接種が最も効果的といわれ、既に世界100カ国以上の国でおおむねこの年齢で接種が行われています。

ただし、このワクチンは特定のHPVの感染を予防するためのワクチンであり、子宮頸がんの発症を100%予防できるものではありません。接種しても定期的に検診を受けることが大切です。

日本の検診率は20%台、
ぜひ検診を

子宮頸がんを防ぐにはワクチン接種と検診が大切ですが、その検診率は欧米が軒並み70%から80%台なのに、日本は20%台でしかありません。

女性医療というのは、いろいろな分野で急速に進歩してきています。ぜひ皆さん一人ひとりがその新しい医療を活用して、快適で健康な生活と人生をおくっていただきたいと思います。

定期的に
検診は
受けましょう!

徳島県の
子宮頸がんワクチン接種事情

子宮頸がんの予防ワクチン接種は初回・1カ月後・6カ月後の合計3回の筋肉注射で、約5万円かかります。しかし、一連の接種により、20年程度は効果が持続すると推測されています。よって、1年に換算すればインフルエンザワクチン等と比較しても決して高額ではありません。さらに、徳島県では平成22年10月から県内24市町村と半額ずつ負担をして、県内の中学3年生女子約3600人に全額助成を始めています。

徳島市や小松島市、石井町では、22年秋から11～14歳を対象に全額補助で接種することになっています。将来のある少女たちを頸がんから守るため、そうした取り組みが充実拡大してもらいたいものです。

ワクチン投与の適齢は11～14歳だが、
45歳までの女性は接種を推奨

本院では、平成22年3月から子宮頸がんワクチン接種を開始。子宮頸がんは性交渉によって細菌感染するものですから、できるだけ若い世代へのワクチン接種が望ましく、投与年齢は11歳から14歳ぐらいまでが適齢です。しかし、この年代にワクチン接種を受けていない45歳までの女性に対しても接種が推奨されています。

